

米軍機部品落下事故の事故調査報告に係る質問事項について

1. 事故に対する日米両国政府の認識について

問1 日本政府及び米軍は、今回の事故をどのように受け止めているのか伺いたい。

2. 落下部品等について

問2 「左舷エンジンミッドドアと左舷後部排気管パネルが外れた」とのことだが、落下したパネルの位置や形状等（形、大きさ、材質、重さ）について伺いたい。併せて、位置や形状等については、写真等で示していただきたい。

問3 「機体に固定する留め具が緩」んだとのことだが、パネルを機体に固定する留め具の位置等（位置、箇所数、大きさ、材質）について伺いたい。また、固定方法と確認方法を伺いたい。併せて、位置等については、写真等で示していただきたい。

3. 事故原因等について

問4 「所定の手順に必要な整備作業」と記載されているが、通常の実備作業とは概ねどのようなものなのか伺いたい。（頻度（間隔）と目的、1機あたりの整備の人員及び総人員・体制）

問5 「整備士間における連絡ミスが発生」し、その結果として「所定の手順に必要な整備作業が不注意で行われなかった」とのことだが、具体的にどのようなミスが発生したのか。また、通常であればどのような手続きでミスが防止できるはずであったのか。そのマニュアル等はあるのか伺いたい。

問6 「左舷エンジンミッドドア及び左舷後部排気部パネルの取り外し及び取り付けは、決められた期間内に行われなかった」とのことだが、決められた期間とその期間内の作業スケジュールを示していただきたい。また、決められた期間内とあるが、遅れたのか、行われなかったのか伺いたい。

問7 「徹底的かつ公正な調査が行われた」とあるが、具体的にどのような調査なのか。また、調査はどこの部署や機関が行ったのか伺いたい。

問8 「部品落下の原因は、監督上の過失である」とされているが、今回の事故発生について、監督上の責任は誰にあるのか。また、その者には、今回の事故発生の責任を問い、処分等が行われたのか伺いたい。

4. 再発防止策等について

問9 「飛行隊で即座に研修が行われた」とのことだが、この研修内容、対象範囲及び要した時間について伺いたい。また、この研修は第136戦術電子戦飛行隊のみに実施されたのか伺いたい。

問10 「今回の類をみない過失を是正し、整備過程における再発を防止するため、飛行隊で即座に研修が行われた」とのことであるが、研修以外に航空機の飛行安全に向けてどのような改善を行ったのか伺いたい。

5. 厚木基地での安全対策等について

問11 E A - 6 Bの整備体制と、現在、厚木基地に飛来する第5空母航空団等に属している米軍機の整備手順や体制等に違いはあるのか伺いたい。

問12 現在、厚木基地で運用されている機体について、同様の事故が発生することが危惧されるが、どのような安全対策をとっているのか伺いたい。

問13 普段の教育体制はどのようなになっているのか伺いたい。

6. 事故調査報告等について

問14 平成24年8月15日に開催された日米合同委員会において、米側から事故調査の報告の3ヵ月延期の申し入れが行われたにもかかわらず、そのわずか5日後に米側からこのたびの調査結果等が日本側に伝えられたが、その経緯について伺いたい。

問15 平成8年12月2日の日米合同委員会において、米国政府は、日本政府に対して米軍航空機の事故調査報告書の公表可能な写しを提供することとなっているが、ここでいう事故調査報告書と、今回の防衛省からの「お知らせ」との関係について伺いたい。